

サーチライト With Pastor Jon 創世記 1 章 パート 3

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

神が地球を再創造した時、地球はここにありましたね？ そうですよ？

そして大空の天（空間）があって、その空間の上に水があります。

空間が水と水とを分けている、と神がはっきりと言っていますから。

「大空が水の真っただ中であれ。水と水との間に区別があれ。」（創世記 1:6）

なので、地上に水があり、空があって、その空（空間）を取り囲んでいる水がある。

つまり、地球は水の幕で覆われていて、空間の周りは巨大な温室になっていました。

それは、全世界が均一の気温であるということを意味します。

この水の幕は、SP（紫外線カット）40、強力な鼻カバーや日焼け止めになっていて、紫外線の影響を受けないことがありません。

全世界に均一の温度が提供され、地球全体が巨大なマウイ島のようなはずでした。

ところが実際に起きたのは、私が思うに、水の幕が崩壊し、大雨となって“ノアの洪水”が起こり、地球が水浸しになりました。

その瞬間、全てが根本から変えられて、人はもう、それまでのように長く生きることはなくなりました。

近いうちに創世記 5 章でお話しますが、寿命は短くなり、大気に関すること、環境的、生態的なこと全てに、瞬時に激変が起こったのです。

かつては全世界を熱帯に保っていた水の幕が崩壊したからです。

それが事実であれば、熱帯植物の残留物や化石が南極や北極圏で見つかるはずですが、何と、実際にそ

れらは発見されています。

科学も、ある時期、この地域を含めて地球全体が熱帯だったことを認めています。

これが、神から与えられ、私が信じている、とてもシンプルで素晴らしい解説です。

水の幕があったのに、人々の罪のために洪水が起きました。

これについては、創世記 8 章、9 章、10 章でお話しします。

水の幕が崩壊して、それが洪水となったのです。

神は「天の下の水は一所に集まれ。かわいた所が現われよ。」と仰せられた。

するとそのようになった。(創世記 1:9)

神は、かわいた所を地と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。

神は見て、それをよしとされた。(創世記 1:10)

神は水の所を海と名づけ、乾いた所を地と名づけました。

神が、「地は植物、種を生じる草、種類にしたがって、その中に種のある実を結ぶ果樹を地の上に芽生えさせよ。」と仰せられると、そのようになった。(創世記 1:11)

それで、地は植物、おのおのその種類にしたがって種を生じる草、おのおのその種類にしたがって、その中に種のある実を結ぶ木を生じた。

神は見て、それをよしとされた。(創世記 1:12)

こうして夕があり、朝があった。第三日。(創世記 1:13)

さあ、次は生命が現れました。

第 1 日は光と闇、昼と夜。第 2 日は大空、空間。第 3 日は生命。

なぜ 3 日目に!!! なぜ実が現れるのですか!?

どうして 3 日目に生命が出現するのですか!!!

なぜなら皆さん、イエス・キリストですよ。

イエスは死から 3 日目によみがえった初穂です。とても分かり易い。

イエスは 3 日目によみがえりました。彼が初穂です。

私たちに、いのちがあるのは、イエス復活のストーリーの中で、3 日目にイエスがよみがえったから。

第 3 日、生命が芽生えました。

ついで神は、「光る物は天の大空にあって、昼と夜とを区別せよ。

しるしのため、季節のため、日のため、年のために、役立て。(創世記 1:14)

天の大空で光る物となり、地上を照らせ。」と仰せられた。

するとそのようになった。(創世記 1:15)

それで神は二つの大きな光る物を造られた。

大きいほうの光る物には昼をつかさどらせ、小さいほうの光る物には夜をつかさどらせた。また星を造られた。(創世記 1:16)

神はそれらを天の大空に置き、地上を照らせ、(創世記 1:17)

また昼と夜とをつかさどり、光とやみとを区別するようにされた。

神は見て、それをよしとされた。(創世記 1:18)

こうして夕があり、朝があった。第四日。(創世記 1:19)

4 日目に神は太陽を造りました。それと月。大きい光と小さい光。

先日私はシアトルで、ラジオのトーク番組に出演していたのですが、そこに誰かが電話してきてこう言うのです。

「ジョン…イエスは、私たちは神のものだと言いましたよね？」

私は、どういう意味かと尋ねました。

「ジョン、イエスは、自分が世の光だと言いませんでしたか？」〈
言いました。〉

「じゃあ、これはどうなんですか？ イエスは私たちも世の光だと言いませんでしたか？」

〈言いましたよ。〉

「イエスが光で私たちも光なら、私たちはみな同じ光。ということは、私たちも神じゃないのですか!？」

そこで私は言いました。「残念だけどそれは違う。それは真実ではない。」

真実はこうです。よく聞いて下さい。

イエスは光です。そしてイエスは、私たちも光だと言いました。

しかしイエスは、彼自身が光なのです。私たちは光を反射しているに過ぎません。

イエスは“サン”。“SON” (息子)だけではなく、“SUN” (太陽)でもあるのです。

私たちは小さな光である月。私たちが生きている闇の社会の中で光る月。

自らが光を放ち、照らしていますか？ いいえ！

私たちがしているのは、イエスの光を反射させていることです。夜空の月のように。

それがあなたで、それが私。私たちは月のようなもの。

私たちはイエスの光を反射させているだけであって、私たち自身には光がありません。

そしてそれは夜のしるしであり、私たちが生きている闇の文化の中で、イエスの光をただ反射させているのです。

ところが 2 - 3 週間前に、妻のタミーと東エルサレムに行って星を眺めている時に面白いものを見ました。

突然、月がどんどん、どんどん、どんどん、どんどん小さくなって…月食です。

太陽が月に光をあてて、月はその光を反射させています。

それで私たちには何が見えていますか？ この地球です。

地球が太陽と月の間に入り込むと月食が起こり、どんな程度であれ、地球が間に入り込んだ分だけ、月は反射する光を失うのです。

同じことが、あなたにも私にも起こります。

イエスが太陽で私たちは月。

ということは、私たちの中に入り込む隙を世に与えると、その程度の大小に関係なく、それに比例して私たちは光を失ってしまうのです。

一つ質問させて下さい。

あなたが今日、自分の人生を月で表すなら満月ですか？

それとも 3/4？ 半月？ 1/4？ 三日月？ 月食の月？

あなたが世に入り込む隙を与えればその分、あなたと太陽の間にそれが入り込んだ日数だけ、あなたが、あなたと太陽（イエス・キリスト）との間に世が入るのをどれだけ許すかによって、あなた自身が侵食される大きさが決まります。

もし私たちが世に、私たちとイエス・キリストの間に入り込む、一切の余地を与えなければ、私たちは輝けるのです。

私は皆さんに“ムーニーズ”（Moon People）のようであって欲しい。

いや…“ムーニーズ”ではなく（*moonには“からかいや嘲りのためにお尻を出して見せる”の意味もある）、そういう意味じゃなくて…何が言いたいかわかるでしょ？

満月のようになるということです。Moon people（お尻を出す人たち）ではなくて。

そんなことは言ってませんよ。言ってません。

私は「輝きなさい」と言ったのです。「キラキラ輝きなさい」と。まったく、もお。

世を、あなたと太陽の間に入れたいことによって、です。

早く次へ進んだ方が良さそうだ。

そういうわけで、大きい光（太陽）と小さい光（月）。

小さい光（月）は大きい光（太陽）の光を反射して夜を照らすためにあるのです。

ついで神は、「水は生き物の群れが、群がるようになれ。また鳥は地の上、天の大空を飛べ。」と仰せられた。（創世記 1:20）

それで神は、海の巨獣と、その種類にしたがって、水に群がりうごめくすべての生き物と、その種類にしたがって、翼のあるすべての鳥を創造された。

神は見て、それをよしとされた。（創世記 1:21）

神はまた、それらを祝福して仰せられた。

「生めよ。ふえよ。海の水に満ちよ。また鳥は、地にふえよ。」（創世記 1:22）

こうして、夕があり、朝があった。第五日。（創世記 1:23）

ついで神は、「地は、その種類にしたがって、生き物、家畜や、はうもの、その種類にしたがって野の獣を生ぜよ。」と仰せられた。

するとそのようになった。（創世記 1:24）

神は、その種類にしたがって野の獣、その種類にしたがって家畜、その種類にしたがって地のすべてのはうものを造られた。

神は見て、それをよしとされた。（創世記 1:25）

気付いて下さい。これは、有神論的進化論に致命的な打撃を与えます。

彼らの考えは、神が最初の一連の作業を始め、それから、その種類を次から次へと別の種類に進化させた、というものです。

この部分はヘブル語では、はっきりと書かれています。

彼らの種類にしたがって。（after their kind）

彼の種類にしたがって。（after his kind）

その種類にしたがって。（after its kind）

言い換えれば、それらは同じ種類の中で変化することはあっても、一つの種類から別の種類に変化することはないのです。

彼らの種類にしたがって。彼の種類にしたがって。 その種類にしたがって。

神は非常にはっきりと宣言しています。

ここで起こっているのは、生物の種類は、それらが分類された種類のままでということ。

同じ種類の中で突然変異することがあっても、ある種類から異なる種類に変化することはありません。

あなたは、イヌ同士なら繁殖させたり異種交配させたり色んなことができます。

好きなように形や色や大きさ、性質を変えることができますでしょう。

でも、それはいつまでもイヌのままで、絶対にネコにはなりません。

イヌを異種交配させることによって、様々な種類のイヌが誕生しても、絶対にネコにはならない。不可能です。

「そう…かもしれない…けど…十分な時間が与えられれば…」 そうですか？

科学者たちがショウジョウバエ（コバエ）の繁殖に成功したことをご存知でしたか？

家の中でコバエを見た事がある人？

驚きですよ。それはものすごい勢いで繁殖を繰り返します。

科学者たちは、コバエを何億もの世代に亘って繁殖させました。何億もの世代。

それでどうなったと思いますか？

それらはそれでもまだ、コバエのままでした。

何億世代と移り変わっても、一匹としてミツバチになって飛び出したものはなく、ハチドリにもなりませんでした。

私はその本を持っています。“The experiment with fruit flies”

彼らは、十分な世代を経て何億もの世代に亘って交配を繰り返せば、いずれ異なった種類のものができるということを証明しようとして、あらゆる手段を尽くして実験しましたが、それはまだ起こっていません。

コバエという種類の中での変化はありましたが、それは未だコバエのままです。

ところで時間と言え、考えて欲しいのですが、時間というのは進化論者にとっては最重要点で、進化には、とてつもなく多くの何十億という年月が必要だ、と言います。

しかし、ここにも非常に大きな問題があることに気付きませんか？

太陽は 1 秒間に 1,200,000 トンの質量を失っています。

1 秒毎にブン、ブン、ブン、ブン、ブン、ブン 120 万トン失う。1 秒毎に、です。

地球上に生命をもたらすために、自然な力で進化が起こるには、何十億年も、何十億年も、更に何十億年も必要だと進化論者は言います。

ということは、地球で生命が進化するためには、何十億年も、何十億年もさかのぼらなければならず、且つ、その間に失われた太陽の質量も加えなければなりません。

何十億年、何十億年に亘る 1 秒毎に 120 万トンの質量を…

するとそれは、とてつもなく巨大な太陽となり、しかも大きさの問題だけでなく熱も。

その太陽が地球に非常に接近すると、その温度は大変なもので、地球上のものは何から何までみな、瞬

時にして焼けてしまいます。

つまり、進化のために何十億もの年月をさかのぼることが必要だ、というのは問題解決にはなりません。

天文学者が太陽について語る事実によっても、それはあり得ないのです。

太陽やショウジョウバエについてあれこれ話してきましたが、神はここでははっきりと言っています。

「全ての種類は、その種類にしたがって」と。

そして 26 節。ここはとても大切な箇所なのでマークしておいて下さい。

神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。

(創世記 1:26 新改訳 2017)

おお、聞きましたか？

「さあ、人を造ろう。我々のかたちとして。」 **Let us make man in our image.**

神は「LET US」と言いました。

私は最近、この箇所についてラビ（ユダヤ教教師）に聞いてみました。

「この箇所についてはどうお考えですか？」

「なぜ神は“Let US（我々）”と言ったのでしょうか？」

「これは三位一体のヒントになりませんか？」

「3人で1人、1人で3人。“Let US（我々）”」

するとこのラビは言いました。

「いや…私はそれを“格の高いWE（我々）”と捉えている。

たとえば、英国の女王が『さあ、ランチにしましょう』と言えば、それは女王が昼食を食べることであり、『さあ、宮殿へ行きましょう』と言えば、それは女王が宮殿へ行くという意味である。だからそれは“格の高いWE”なのだ。」

そこで「本当にそんな事を信じているのですか？」と聞いてみたら、彼は「NO…」と。

なぜなら、この“格の高いWE”には無理があるからです。

それは「Let us make man」とはなり得ません。

「神は仰せられた。『Let us…』」

“神”とはヘブル語では“エロヒーム” この言葉を聞いたことがありますか？

これは複数形です。

単数形は“エル” 両数は“エラ” 三人以上の複数形は“エロヒーム”

ヘブル語で“神”（エロヒーム）は三人以上の複数形。

だから、「エロヒーム（神）は仰せられた。さあ、人を造ろう。我々のかたちとして。」

「Let us make man in our image.」

それから神は私たちをどのように造りましたか？

私たちもある意味、三位一体です。体、魂、霊の三位一体の存在なのです。

ちょうど神が父と子と聖霊であるように、私たちは体と魂と霊です。

私たちは神のかたちに造られました。

体は肉体に繋がっています。

魂は思いや感情で、人々に繋がります。

霊は永遠に、つまり神に繋がっています。

それは、全ての人が、創造主は本当に存在する、ということを理解する部分であり、神と霊的に繋がることを切望するところです。

動物も体（肉体）と魂（思いや感情）を持っています。

まったく…ウチの猫には確かに自我があり、ウチの犬には感情がある。

動物にも、思いや感情の魂はあります。

しかしながら、動物には霊がありません。

犬がドッグフードを食べる前に頭を垂れて「父なる神よ。この食事を祝福して下さい…」とお祈りするのを見たことがありますか？ 一度もないでしょ？

猫が拝むのを見たことがありますか？ 自分以外のものを。

見たことないでしょ？ とにかく、ないでしょ!?

なぜなら、彼らは神のかたちには造られていないから。

人間は違います。体と魂と霊。人間は霊的な存在なのです。

“エロヒーム” “神”

言葉については、また後ほど詳しくお話しますが、神はご自分が三位一体の神であることを、見事に表現しています。申命記 6 章にそのことが書いてあるので、またそのうちに。

神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。

こうして彼ら（人）が、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」（創世記 1:26 新改訳 2017）

神は人をご自身のかたちとして創造された。

神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。（創世記 1:27 新改訳 2017）

神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。

「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。（創世記 1:28 新改訳 2017）

ちょっとここで止まりましょう。

「従えよ」？ 従えよ…

これは罪の前のことです。

神が人を造った後、人の失敗によっておかしくなるのですが、これはその前のことです。

神は人に任務を与えました。「地を従えよ」と。

地を何から、なぜ、従えるのですか？

サタンからです。これが人に与えられた定めだったのです。初めは…。

神は人が失敗することを知っていました。

それでも一番初めに、神はこう言ったのです。

「この地球という小さな石は、わたしと反逆者サタンとの闘いの場になる。

そこで人よ。こうしよう。

わたしはあなたを用いる。

あなたはわたしのパートナーとなり、わたしの計画、プロセスの一部となり、わたしの手足となって地球を従えなさい。

そして、敵を追放するのです。」

つづく

主が仰せられると そのようになり 主が命じられると それは立つ。

主は 国々のはかりごとを破り もろもろの民の計画をくじかれる。

主のはかられることは とこしえに立ち みこころの計画は 代々に続く。

幸いなことよ。主を自らの神とする国は。

神がご自分のゆずりとして選ばれた民は。

主は 天から目を注ぎ 人の子らをすべてご覧になる。

御座が据えられた所から 地に住むすべての者に目を留められる。

主は 一人ひとりの心を形造り わざのすべてを読み取る方。

(詩篇 33:9-15 新改訳 2017)